

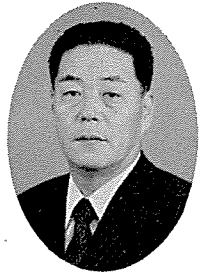
広報 しんち

12月1日現在 ()内は前月比
2,019世帯 (+6)
男 4,362人 (+10)
女 4,505人 (+6)
合計 8,867人 (+16)

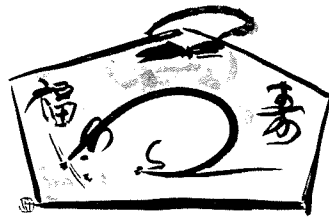
活カある

住みよい町を

町長 荒 和 英



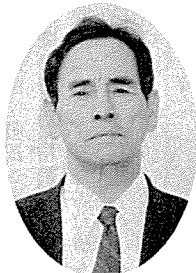
年頭のごあいさつ



進展をめざし

鋭意努力

議長 鈴木 勘 一



新年おめでとうでございます。謹んで新春のお喜びを申しあげますとともに、町政に対する日頃のご支援ご協力に心から感謝し厚くお礼を申しあげます。

昨年、ついに豊作の期待がかなえられず、農家経済はもちろんのこと、本町全体の経済に痛手を受けました。しかし一方新地町の未来をひらく相馬地域開発計画は、地権者各位のご理解ご協力と町民各位のご支援によりまして確実に進展し、地域振興整備公団の事業本採択がなされ、さらに目玉である「新地火力発電所」が、12月20日に開かれた電源開発調整審議会において承認されたことにより、いよいよ実現に向けての第一歩をふみ出しました。

この実現を軸として、本町の産業をはじめ、あらゆる面の活性化をはかり飛躍をとげたいと存じます。

未来の夢は日々にくらんでおりますが、現下の状況はたいへん厳しい状況におかれております。国の財政の悪化のため、財政ひきしめ、いわゆるマイナスイシューリングが行われまして、本町の財政はかつてない、きわめて厳しい状況にたち至っております。町政の運営はまことに容易ではありません。

私は本町の未来に夢を託しつつ、町民のみなさまの特段のご協力のもとに、現下の困難を乗り切って参りたいと存じます。厳しい財政を背景とし、今年度は産業の振興と生活環境の整備関係の事業に焦点を絞り、一方やすらぎのある暮しと、心にするおいをもつことをめざし、教育文化、社会福祉に配慮するという基本方針で進みたいと存じます。

さらに今年の8月20日をもって、三カ村合併30周年を迎える

議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。輝かしい新春を迎えまして、町民の皆様とともに、新春を寿ぎ、あわせて新地町の限りなき進展をお祝いでございます。わたくしの心からの喜びとするところでございます。

毎年わたくしたちは、年の改まるとともに、いっそうの進展をめざして前進することを誓い

合ってまいりましたが、今年も町議会におきましては、相馬地域開発の軸である火力発電所の設置をはじめ工場の誘致を図って、住民福祉のために、ご期待に沿うよう努力して参ることをお誓いいたす次第であります。

過去の欠点は卒直に反省し、ひとりひとりが、住民の心を心として、最大の努力を払い、理事者と緊密な連携を保ちなが

こととなります。30年という年輪は大事な節目であり、30周年にふさわしい意義のある記念事業を行いたいと考えております。

今年のおもな事業は「相馬地域開発計画の推進」「農村総合整備モデル事業」「町道整備事業」「ほ場整備事業」「釣師浜漁港整備事業」「30周年記念事業」などです。

困難な環境の中ではより一層、人の和とご協力を得ることが最も大事であると存じます。

八千町民が心を一つにすればいかなる困難も乗り切れるものと確信いたしております。

なにとぞ夢多き未来をめざし今年も住みよい町づくりの確実な一歩を築くため、町民みなさまの一層のご理解とお力添えを賜われますようお願いし、幸多き年でありますことをご祈念申し上げます。

ら、一歩一歩確実に精進いたさなければならぬと思っております。

なにとぞ、新地町政の発展のために、町民各位におかれては、旧年にも増して、ご指導ごべんたつを賜われますようお願い申し上げます。

なお、皆様のご健勝とご多幸をお祈りして年頭のごあいさつといたします。

合併30周年記念

町民号を実施

8月

昭和29年8月20日に福田・新地・駒ヶ嶺の三ヶ村が合併し、新地町が誕生しました。その後昭和46年に町政を施行し、新地町となりましたが、今年が合併30周年という記念すべき年にあたります。

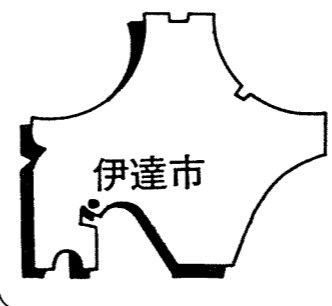
この30年間に新地町はめざましい飛躍と発展をとげることができました。10年前に策定された相馬地域開発計画が、昨年、地域公園の事業採択、火力発電所の建設決定で本格的に始動したこともあって、「明日に希望のもてる住みよい町」の実現が手の届くところまで来た感じさえします。

多くの苦難を、町民一丸となって切り開いてきた結果でもあり、たゆまぬ努力と精進のたまものであると確信します。

新地町が輝かしい未来へスタートする年に、合併30周年を同時に迎えられるということは本当に意義深いことであり喜ばしい限りです。これを機会に町民みなで、町の歴史をひもときながらこれまでの歩みをふり返ると同時に、新たな歴史の創造に向けて、さらに前進を図りたいものです。

町民号

- 北海道道南(伊達市)
○59年8月27日~30日 (3泊4日)
○費用 49,000円
○募集人員 200名
○申込締切 3月31日



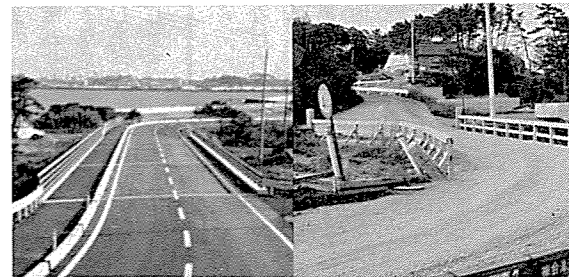
福祉増進の担い手
民生(児童)委員に委嘱状

厚生大臣の委嘱を受け、地域の福祉増進のために活躍されている民生児童委員が、11月30日で任期満了となり、新たに25名のかたがたが選任されました。任期は3年で、福祉問題等の相談・指導にあたることになります。改選により6名のかたがたが退任されましたが、本当に長い間ごくろうさまでした。

浜畑橋(今泉)が完成



今泉地内の地藏川にかかる浜畑橋が26年ぶりに架け替えられ幅10m、長さ86mのすばらしい永久橋として誕生しました。この工事は旧橋の老朽化にともない、昭和53年から進められていたもので、総事業費三億三千四百万円を投じての完成となりました。



▲永久橋に生れかわった「浜畑橋」と旧橋

お気軽に

- 新生児児童委員 () 担当地区
※敬称略
委員 草野 輝雄(沢口・鉄炮町) 森 正記(明地・大山田) 荒 明(中里) 荒 アキ子(木崎) 三宅 八弥(埜浜) 監事 荒博志(作田) 委員 佐藤 喜一(下真弓) 副総務 林 秀一(上真弓) 委員 加藤 修(岡台・狼沢) 片平 光男(岡~その他) 杉目 一男(杉目) 総務 林 一郎(新地町) 委員 小野トメヨ(中島) 佐藤セツ子(小川) 監事 太田 和(釣師~南) 委員 荒利衛(釣師~北) 鈴木 秀夫(大戸浜) 佐藤テイ子(今泉) 監事 斉藤 利三(菅谷) 委員 山内 一二(高田) 渡部ヨシイ(新町・上ノ町) 副総務 高崎 隆光(城内・駒町) 委員 菅野 サク(藤崎・波民) 荒 麗子(今神・干拓) 後藤 実(富倉・原善善)
退任 菊地 一・飯土井喜基・鈴木 三雄 坂元イツ子・佐藤まつ子・豊田 ハツ

ご相談ください

農業経営者海外派遣

ヨーロッパ見てある記(2)

デンマーク

広大な農場と 省力経営

9月15日 世界を代表する花の国「オランダ」での視察を終え、空路第四の訪問国デンマークへ。

いよいよ今回の研修の中で、最大の不安と期待を抱いていた農家民泊のスタートです。

私は福島市の阿部さんと、クリッピンゲに住む花井栽培農家のペーターソン氏宅にお世話になることになりました。家族は、夫妻と末娘の三人で、主にシタ類を栽培する四〇〇〇㎡の温室を持ち、海辺にはサマーハウスを持つなど、ゆとりある農家のようでした。

温室の説明や夕食の団らんでの英会話では、さすがに困難を極めました。身ぶり手ぶりの方がかえって良く通じ大笑いでした。

翌16日は、老人ホームと農場の見学でしたが、ホームには医療、娯楽等必要なものすべて備えられ、福祉国家ならではの国民総生産の50%を費やすものと



▲農家民泊での団らんのひととき (左端が加藤さん)

聞き、改めて社会福祉の難しさも痛感させられました。四haもの温室に、サラダ菜だけを栽培する個人経営農場では、広さや大きさに見慣れた私たちも、全員が驚きを隠しきれぬ様子でした。一区画20aのサラダ菜は成長度合がすべて同じで、

今回の視察では林業に関する研修がなく大変残念に思っていました。その残念さも関心から、驚きへと変りました。それは、どの国を見ても国土の保護、国土緑化を第一に考え、そして確実に実行し、その中で農業を営み、生活しているということだったからです。

生産者と消費者が 共通理解

されましたが、中でも、日本語とデンマーク語で合唱した「ほたるの光」には全員感激し、生涯忘れることのできない思い出となりました。

私は四年前に、フィリピンの山奥で稲作指導をしていた友人を訪ね、一週間程民泊をしながら現地の農業をつぶさに見学してきた事があります。

私自身、今回の研修によって先進国と途上国の二つの農業を見聞することができましたが、中間的な日本の農業を今もう一度見直さなければならぬと思いました。

町の歴史 たずねある記

新地の武士と在家

その 3

中世期に有力な農家、つまり在家があり、これをうらづける傳承として、「福田十八戸時代」というのがありと書いたが、このほかに、「菅谷の里」の傳承そして子盾(負)嶺神社のこともその一つと考えられる。

福田十八戸というのは、福田の肝入鈴木家を中心としたもので、鈴木家文書の中に「福田十八軒トハ、鈴木家沼倉・山崎ノ阿部・田中ノ横山・土合ノ荒・辻ノ星・大久保ノ佐藤・山ノ上齊藤・明地桜井・小鯨横山・鉄炮町高橋・山神猪狩・山居野地小山田荒井・大山田林・湖上岡元・城ノ内三浦・館内佐藤・別所佐藤」とある。このうち館内というものは竹内のことである。

この十八戸が福田川(三滝川)を中心として居をかまえていたといわれている。三滝川は福田川といい、この

時代には「横町ヨリ一直線ニ出テ福田耕土ノ荒原ヲ貫流シ中礫ヲ経テ八澤河ニ落テ海ニ注ク云々」とある。

この文書はかなり後代に書かれたものだが、状況がいつの時代になるかは推測する以外にない。種々の状況から考えると、恐らく、黒木氏が新地方部を領した建武年間以降であろうと思われる。

この文書には種々疑問の点があるが、注目すべきことは、前号で紹介した在家の名とこの屋敷名がかなり同じものがあることである。

そしてこのうち、「荒井家」については、先祖の石碑というのがあり「広長舌説信士塔 応永七年十一月二十一日冥行年八十歳」と誌されている。

応永七年は西暦一、四〇〇年である。荒井家は、亘理伊達の家臣であるが、伊達成実が亘理にきたのは、慶長七年(一六〇二)で、福田新地が亘理に増加になったのは寛永五年(一六二八)であるから、その二百年以上も前からすでに荒井家は福田に居住していたことになる。

目黒 美津英

お知らせ



あなたの標語を全国に！ 防火標語募集

日本損害保険協会と消防庁では昭和59年度の「全国統一防火標語」を募集しています。入選作品は今年一年間、防火ポスターをはじめ、広く防火PRに使われます。ふるってご応募ください。

◆応募方法

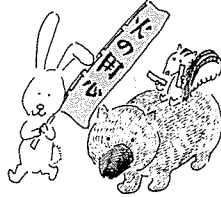
郵便はがき一枚につき標語一点を書き、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年令・性別・職業・電話番号を明記し〒101 東京都千代田区神田淡路町二一九 日本損害保険

協会「防火標語」係あてお送りください。
※郵便はがき以外は受付られません。

◆締切日 昭和59年2月10日

◆入賞および賞金

火のみはひり、きょうはとうさん あすははく



家族全員で火災予防を！

- ▼入選 一編 二十万円
 - ▼佳作 二十編 各二万円
 - ◆発表 昭和59年3月下旬 (本人あて直接通知)
- ちなみにこれまでの標語を紹介しますと……

○これくらいと思うゆだんが火をまねく(54年)

○あなたがす火事を出すのもふせぐのも(55年)

○まい日が防火デーです ぼくの家(56年)

○火の用心 心で用心 目で用心(57年)

○点検は防火のはじまり しめくくり(58年)

さて今年はどうな標語に？

★歳末たすけあい運動に

六十四万二千四百四十四円
内訳——▼戸別募金 五十六万七千四百円(目標額五十四万八千四百円) ▼遠藤徳雄さん(小川) 三万円

▼駒ヶ嶺小学校児童会 二万三千五百一円 ▼尚英中学校生徒会 二万六千六百九十三円

※これらの募金は、社会福祉施設入所者、精神病院入院患者等に全額配分いたしました。

☆釣師の寺島四郎さんから社会福祉協議会に、四千一円のご寄付がありました。

☆町役場職員共助会(加藤哲蔵会長)から社会福祉協議会に、バザーの収益金として四万円のご寄付がありました。

☆原町信用金庫(石田正寿理事長)から新地支店開設を記念して百万円のご寄付がありました。

した。

2月のこよみ

- 1日 交通事故相談 9時 役場 町政懇談会 19時30分 藤崎節分
- 4日 町政懇談会 19時30分 富倉立春二十四節氣の第一番目
- 5日 県立移動図書館来町 9時
- 8日 高齢者職業相談 9時 役場 防犯の日
- 10日 心配ごと相談 10時 役場 建国記念の日
- 11日 妊婦相談 9時30分 母子センター
- 14日 交通事故相談 9時 役場 雨水二十四節氣の二番目
- 15日 交通安全話し合いの日
- 19日 町民スキー教室宮城蔵王心配ごと相談 10時 役場
- 20日 国民体育大会スキー・山形妊婦相談 9時30分 母子センター
- 23日 山火事予防運動 3月6日 全国火災予防運動
- 29日 中甸 農業委員会

3月13日



11/21~12/31 届 出

▷出生 (届出は14日以内に) おめでとうございます。

未 来	荒井 祐一	作 田
里 恵	荒井 和義	作 田
里 美	今野 義則	岡
雄	黒藤 文男	岡
真 也	早川 忠美	杉 目
知 美	田村 民雄	小 川
美佳子	目黒 良一	小 川
直	西牧 清	釣 師
晋 弘	小野 春雄	釣 師
信 広	寺島 義信	大 戸
修 一	浜野 義昭	大 戸
仁 和	加藤 仁一	大 戸
真 季	阿部 陵一	城 内
洋 樹	伏見 春雄	上ノ町
満 崇	斉藤 忠	藤 崎
裕 美	菅野 茂雄	富 倉

▷死亡 (届出は7日以内に)

おくやみ申し上げます。

佐藤トミイ	90	鉄炮町
早川ナツイ	71	岡
森 トメ	69	杉 目
橋本エナヨ	81	新地町
高野 康	80	中 島
渡部 トヨ	91	新 町
寺島ナライ	87	駒 町

訂正とおわび
12月号7ページ「歳時記」の記事中、冬至の昼の時間を約11時間と紹介しましたが、9時間30分の誤りでした。
訂正しおわびいたします。